

J-DAVID News



Japan Dialysis Active Vitamin D Research Group



□永良部島噴火、箱根山噴火、新幹線車内焼身自殺、ギリシャ債務不履行・・・2015年6月も心配事が多かったですね。あ、もう今年も半分過ぎてしまったのですね！

さ～て今月のメッセージは、明治橋病院の垣谷隆介先生からいただいております。

世話人・幹事からのメッセージ

「運命のビタミンD」

明治橋病院 理事長
垣谷 隆介 先生

平成9年卒業の若造といたしましては、J-DAVID Newsの全国各地の大先生からのメッセージを、まさか私に依頼は回ってこないだろうと気楽に拝見させていただいております。今回、晴天の霹靂で御指名をいただき、「さてどうしようか」とビタミンDについて色々考えてみたところ、私とは浅はかならぬ因縁(?)があることを思い返し驚いております。

医学部4回生時に各研究講座に分かれ研究をするというカリキュラムがあり、私は公衆衛生学講座を志望。「骨粗鬆症と生活習慣の関係」をテーマに研究を行いました。内容は、特別養護老人ホーム入所中の方に過去の生活習慣を聞き取り調査し、骨粗鬆症との関連を調べるというものでしたが、その当時大阪市立大学第2内科助教授であった前教授(現大阪市立大学学長兼理事長)の西澤良記先生より、ビタミンDについて検討するよう御指導いただいたことが、私とビタミンDとの初めての出会いであったように記憶しております。

その時の経験より、医師として「骨」をテーマにしようと考え、大阪市立大学第2内科に入局。当時の教授はビタミンDの大家、故森井浩世先生であり、大変良く目

をかけていただきました。今でも教授回診時の「ディーはどうですか」のお言葉は忘れません。

しかし、医師一年目研修時にMCTDからの腎不全、透析導入症例を庄司哲雄先生に御指導いただいたご縁で透析に興味を持ち、蒼龍会井上病院での研修を志望。そのまま十二年も居つくことになってしまいました。どっぷり透析の世界に浸かり、目の前の透析患者さんが様々な合併症・疾患で去ってゆく前線に立っていた私はもはや「骨」に興味を失ってしまっており、ビタミンDの透析における認識は骨代謝・二次性副甲状腺機能亢進症に対する治療薬といったもので、あまり興味のわかないものとなっていたのです。

その時、庄司哲雄先生が突然(私には突然に感じました)「ビタミンDが長寿ホルモンになり得るのか？」とお話になられ、前線に立つものとしては、前線の曇天の中に新たな日の光がさしたように感じたものでした。

腎不全外来をしていると、時にビタミンDによる高カルシウム血症、腎機能悪化症例を経験し、ビタミンDを信じられなくなることがありますが、ビタミンDが低下していることより正常であることの方が良いと信じ適正使用を心がけているものとしては、良い結果が出ることに期待を寄せております。



最近の文献から

CKD患者のビタミンD欠乏にビタミンD結合蛋白は関与しない

Vitamin D Binding Protein Is Not Involved in Vitamin D Deficiency in Patients with Chronic Kidney Disease.

Kalousova M, et al. Biomed Res Int. 2015 vol. 2015 pp. 492365

【ポイント】蛋白尿を呈するCKDではビタミンD結合蛋白(DBP)が尿中に失われ、血清25(OH)D濃度の低下につながるといわれてきた。本研究では、健常群、CKD群、HD群のDBP濃度、25(OH)D濃度を比較し、CKDではDBP濃度は予想に反し高値であることを示している。

【詳しくは】<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/26064917?dopt=Citation>

ミネラル代謝バイオマーカーの腎クリアランス

Renal Clearance of Mineral Metabolism Biomarkers.

van Ballegooijen AJ, et al. J Am Soc Nephrol. 2015 Jun 5. pii: ASN.2014121253. [Epub ahead of print]

【ポイント】平均71歳の17人の参加者において、大動脈と腎静脈からの採血により、PTH、FGF23、ビタミンDなどの腎クリアランスを測定した。クリアチニンの除去率が22.1%であったのに対し、PTH除去率は44.2%、FGF23除去率は17.1%だった。腎機能低下にともなうPTH除去の低下は二次性副甲状腺機能亢進症の一因かもしれない。

【詳しくは】<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/26047790?dopt=Citation>

最新進捗状況

進捗状況を報告いたします。(6月26日現在)

症例報告書回収状況報告

	観察開始時	3ヶ月目	6ヶ月目	12ヶ月目	18ヶ月目	24ヶ月目	30ヶ月目	36ヶ月目	42ヶ月目	48ヶ月目
前月	976	936	923	879	842	802	724	687	646	515
今月 (前月比)	976	936 (-)	923 (-)	879 (-)	843 (+1)	803 (+1)	724 (-)	688 (+1)	649 (+3)	569 (+54)

内容確認書(クエリー)回収状況報告

	開始時	3ヶ月目	6ヶ月目	12ヶ月目	18ヶ月目	24ヶ月目	30ヶ月目	36ヶ月目	42ヶ月目	48ヶ月目	コンプライアンス	中止時	脱落基準	SAE(イベント含む)	総数
発行	1137	783	622	638	616	561	555	457	399	424	1443	196	30	253	8114
回収	1136	777	616	627	592	528	519	424	346	305	1363	181	29	234	7678
回収率(%)	100.0	99.2	99.0	98.3	96.1	94.1	93.5	92.8	86.7	71.9	94.5	92.3	96.7	92.5	94.6

J-DAVID事務局からのお知らせ



第11回 J-DAVID研究会 世話人・幹事会を開催しました。

第11回J-DAVID研究会世話人・幹事会を6月27日(土)に開催しました。本会において、試験の実施状況の報告並びに、会計報告の承認いただきました。

早朝にもかかわらずご出席いただいた世話人・幹事の先生方ありがとうございました。



J-DAVIDデータセンターからのお知らせ

48ヶ月までの症例報告書を7月末までにご提出ください。【重要】

48ヶ月までの症例報告書を7月末までにご提出くださいますようお願いいたします。

症例報告書の回収後、データ入力、お問い合わせが発生した場合クエリの発行、クエリの回答後データ修正などを経てデータ固定となりますので、すみやかなデータ回収が大変重要となります。何卒ご協力の程宜しくお願いいたします。

期限を過ぎても未提出の症例報告書がある場合は別途ご提出の依頼をさせていただきますのでご了承ください。

8月頃には各ご施設様へ症例報告書受領一覧をお送りする予定です。

なお、イベントや有害事象についてもすみやかにご報告いただきますようお願い申し上げます。

追跡調査のご協力をお願いします。

この度は中止症例の追跡調査にご協力ありがとうございます。また、データ提出されていない、又は転院先へ手紙をだしていないなどありましたらぜひご対応をお願いします。

編集・発行：J-DAVID研究会事務局
〒545-8585大阪市阿倍野区旭町1-4-3
大阪市立大学大学院医学研究科
代謝内分泌病態内科学 内
電話 06-6645-3806 FAX 06-6645-3808
J-DAVID試験データセンター
電話 06-6645-3443 FAX 06-6646-3588

J-DAVIDのホームページ
<http://j-david.info/>